

限られた臨床時間で、見えにくいプラークを 素早く色識別する染色検査のメリット

プレミアムデンタルケア恵比寿・代官山
(東京都渋谷区)

CASKアカデミー人材育成開発企画

片山塾主宰

歯科衛生士 **片山 章子**



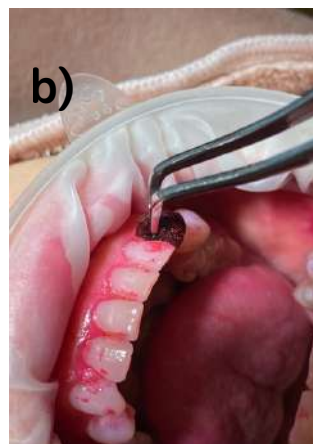
日常の臨床でプラークを染色する場面は多く、用途はさまざまです。

PCRの数字で口腔衛生状態を把握するのに用いるのが一般的ですが、歯肉の炎症やう蝕病変などのリスク部位とプラーク付着との一致性を確認したり、効率良いブラッシングの助言に利用したり、プロケアの歯面清掃では分かりやすいガイドとして便利であるなど、利用価値の高いアイテムです。

本稿で紹介する**プラークテクト・ペレット**は、すでに染色液を含む円形の小さなスポンジです。一般的にスポンジは多孔質でやわらかく、液体を吸収・放出する性質を持つ物質です。染色液を綿球に浸して使用方法との違いは、放出する性能だと考えます。**軽い圧を加えるだけで、ペレット内に含む液体を簡易に放出**します。しかも**本剤の放出量は適度**で、容器やトレーから口腔内にピンセットで運ぶ際にこぼれる懸念が少なく、また、塗布部以外に余計に染色液が流れ落ちないため安心です。ちなみに、**1つのペレットで全顎の染色が可能**です。

どの染色剤を用いる場合も共通する操作の要点は唾液処理です。

下顎臼歯の舌側はもちろんですが、前歯の唇側面に粘稠度の高い唾液が残っていると染色を妨げるため、事前に十分なエア乾燥と吸引をおこない、染色する部位の順序を工夫します。



他のペレットと比べ、概形は大きく厚みがない。
筆者はその特徴を利用して
以下のような染色法を用途に応じておこなう場合がある。

- a) ペレットの中央をピンセットでつまむと操作しやすい。
- b) 疾患の好発部位の1つである隣接面は、ペレットの縁が触れるように操作すると、抜け落ちることなく染色される。
- c) 歯の中央面は、ペレットの平面の部分を利用すると効率が良い。



70代 男性：ブランクテクト・ペレット ブルー(DIRECTA)使用
 視診で歯垢の厚みや性状をおおよそ予想できる程の付着状態ではあるが、
 染色することでそれらが明確になる。
 また、2色で識別できるので、口腔清掃の助言やプロケア器材の選択がおこないやすい。

さて、冒頭で述べた通り、**染色検査は臨床の利用価値が高く便利**なことを私達は理解しています。**肝心なのは、その価値を患者も理解していることです。**

染色後に指導を受けて注意されたという苦い経験しかない患者には煙たがられる染色検査。

「その検査があなたにどんな利益をもたらすのか？」

患者が納得する事前の説明と、検査で得られる情報の提供
 で、前向きに染色検査を受けてもらいたいですね。

